香美市文芸

風の流れ

広報委員会 選

◆一般投稿作品◆

懐へ蝶の入り来し師走かな　岡本 初美
けんめいのリレーも一つ運動会　三木 牧子
曼珠沙華雨の降る中咲きにけり　山﨑 雅也
稚児の手を引きて殿秋祭　山﨑 貴子
木犀の庭に散り敷く雨上がり　山﨑 寿美
あるがまま生きて八十年の暮　三谷 誠郎
鰯雲竜馬は浪の沖みつめ　福留とものり
枇杷の花艶っぽい君は左手に　原 茂
秋風に畝乾きおり種を蒔く　畠山 千江
手ぶろしきこぼれるほどの秋野菜　中村 紫乃
新涼やインク匂える朝刊紙　上池 児未
掛稲の黒くなりたる長雨よ　楮佐古きよ
空家の庭早もススキの穂波して　小原 子川
中山間コスモス咲きて人和む　五百蔵利美
種落ちて今朝もコスモス花ざかり　有澤 春江
星凍てて人のこころに溺れけり　森本 純喜

◆美良布俳句会◆

賑やかでありし旧道秋深む　岡本かほる
大榎もみあう枝や初嵐　明石ゆきゑ
先祖の田守り赤字の稲を刈る　北村 幸子
四万十の鮎とし育ち串刺しに　甲藤 卓雄
容赦なく揺さぶり怖し夜の颱風　北村 里子
夕暮れやコンビニおでん旗揺るる　小野川順子
子の帰る時間に合わせ秋刀魚焼く　前田 芳子
頬張りてもぐもぐぺっと通草かな　中内ゆかり
搾り掛けむ仏手柑ひとつ魳焼く　竹内 ろ草

◆かがみ野俳句会◆

月奉る青絵の皿に鯛一対　古川 信子
門限を忘れて遊ぶ秋の暮　利根 弘子
廃校に友と話らふ秋桜　森本 倢代
アンコールに喝采釣瓶落しかな　山﨑 鈴子
鰯雲鍛冶屋の屋根の明り取り　中澤 美晴
秋風や歌碑の寄り添ふお婉堂　坂元 道子
秋麗や海の香近き道の駅　佐竹 洋子

◆かほく俳句会◆

飽食の果ての小芋の煮ころがし　乾 真紀子
秋の暮右へ左へ鳥の群れ　奥宮かなえ
米櫃へ米落とす音今朝の秋　久保内鏡子
爽やかに言祝ぐ「かほく」五〇〇号　黒岩千英子
俳誌の絵「とんぼう」の眼のするどかり　小松 隆之
明け知らず戸袋に鳴くちちろ虫　小松 昇
秋刀魚焼く世のしがらみに促はれず　杉山 春萠
身のうちに熾火を起す新走り　西内 道彦
大釜が庭の真中に芋嵐　野村 里史
山の柿熟れて大きく晴れにけり　津田吾燈人
はや草木荒ぶる峡の十戸かな　前田 欣一
満月や膝に広げし五〇〇号　間崎 和代
もの探すだけで暮れたりこぼれ萩　宮崎ただし
秋耕や気力で振りぬ四ツ子鍬　宗石 愛喜
呆けてはならぬ気概や唐辛子　森本 之子
城崎へ明日発とうか秋夕焼　山崎かずみ
大根蒔く母ののこせし絣着て　山中 晶子
萱刈って萱で束ねてゐたりけり　山中 瑞輝
月仰ぐ遠き孫子に思ひ馳せ　山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

「いまよ」とは別れの言葉柿の秋　明石 韮生
山峡の案山子は家族より多し　橋本 昭和
別れ際夜寒のことをそれとなく　大石 邦男
柿花火山羊の親子と父と母　安丸 槇子
修学旅行ふつか目の菊日和　前田美智子
四万十の栗焼酎の売れており　森田 菊恵
アナログな日々の生活捨てて秋　前田 小夜
柿の秋連呼で走る選挙カー　笹岡 英世
柚子の木に少し離して脚立置く　樫谷 雅道
仲秋や病窓からは月見えず　田村 一翠

今月のキラリ

新涼やインク匂える朝刊紙

新涼は秋口の新鮮な涼気のこと。朝日の中で広げる朝刊、まだ温かみの残る紙面に微かなインクの匂い。爽やかな一日の始まりである。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）FAX 53・5958

秋の叙勲

平成29年11月3日に発令された、秋の叙勲の市内受章者を紹介します。

瑞宝双光章（学校保健功労）

山下善彦（やましたよしひこ）さん（73歳）

山下善彦さん（土佐山田町東本町）は、昭和44年に山下歯科を開業してから現在に至るまで、歯科医師として地域住民の健康問題解消に取り組みながら、高知県歯科医師会の重職を歴任してこられました。

また、昭和45年から現在まで、舟入小学校の学校歯科医として、学校保健の向上に大きく貢献するなど、地域に密着した歯医者さんとして、今もなお活躍されています。

山下さんは学校歯科医としての日々を振り返り、「昔と比べて虫歯の子どもは少なくなってきた。予防の大切さが浸透してきた証拠かな」としながら、「将来のことを考えて、小さい頃から予防の大切さを教えていくことが大切」と実感を込めて話されました。

「体が元気で、動けるうちは」とはにかむように笑いながら、「現場に立つ仕事を続けていきたい」と思いを語ってくれました。

吉井勇記念館だより

企画展　吉井勇と伊野部恒吉 ～隠棲を支えた心の友～

吉井勇記念館では、企画展・**吉井勇と伊野部恒吉～隠棲を支えた心の友～**を開催します。

伊野部恒吉は高知市生まれ。銘酒『瀧嵐』の醸造元・伊野部酒造（現・高知酒造）を経営し、政治や文学、美術などさまざまな方面に通じていました。2人は、勇が初めて高知へ来た昭和6年に出会い意気投合。恒吉は勇に『瀧嵐』を送ったり、渓鬼荘を訪れて酒を酌み交わすなど、心身ともに疲れ果てて隠棲していた勇を支えました。

今回の企画展では、恒吉を詠んだ歌や随筆、交友のあった土佐の文士たちとの資料などを通し、彼らの友情をひもときます。

【期間】 12月27日（水）～平成30年7月1日（日）

展示解説のお知らせ

吉井勇記念館では、企画展示や吉井勇について、分かりやすく紹介しながら鑑賞していただく展示解説を行っています。

【内容】 毎月第1・3日曜13時30分～（約1時間）

※申込不要・要入館料

年末年始の休館

12月25日（月）・26日（火）は展示替えのため休館します。また、12月28日（木）～1月4日（木）まで年末年始のため休館します。

※1月5日（金）から通常営業

◆問い合わせ先　吉井勇記念館　☎58・2220